



「学びがい」と「働きがい」のある学校づくりを

西部教育事務所 所長 池田 卓巳

令和7年度となりました。今年度も教職員の皆様のおかげで、充実した教育活動が進められていることに感謝申し上げます。

昨年度、多くの学校を訪問させていただきましたが、各学校で、目指す児童生徒像の実現に向け、児童生徒の主体性を重視した素晴らしい取組が進められていることを実感しました。「なんでかなあ?」「わかったわかった!」など、子供たちがエージェンシーを発揮しながら学ぶ姿を通して、指導する先生方の「働きがい」を感じることもできました。

群馬県教育ビジョンではサブテーマとして、「ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成」を掲げています。とても大きな目標ですが、私たちが今、目の前にいる子供たちに対してできることは、課題解決の楽しさを感じられる「学びがい」のある授業にすることでしょう。昨年度の「各教科等授業改善プロジェクト」の公開授業後の参観者アンケートに、「課題を自分事として捉え、しっかり取り組んでいた」「子供たちに任される時間が多く、試行錯誤しながら活動していた」など、生き生きと学ぶ様子がわかる記述が数多くありました。まさに子供たちが「学びがい」を感じている姿であり、群馬県教育ビジョンで目指す「自律した学習者」につながる姿と言えるでしょう。

一方、授業の中で「子供たちに任せる」時間をつくることは、勇気がいることであり準備も必要です。前述したアンケートの中には、「子供たちは主体的に学んでいたが、教材の準備や先生の声がけが大変そうだった」という感想もありました。確かにそうですね。決められた時間の中で、子供

たちに任せながらねらいを達成する。神業のように感じます。以前見たドラマ「ドラゴン桜」の主人公が語っていた「生徒に任せることの大切さ」(注1)も、難しく感じた記憶があります。ここで大切なのは「子供たちに任せようとする私たちの意識」なのでしょう。

先ほどの「教材の準備や先生の声がけ」を含め、活動の設定や集団の人数など、すべてが学習のための「環境」と言えます。教えることが中心となる授業でも、一方通行でなく子供たちが考える時間を確保する、授業の最後に学びを実感する場を設定するなどの環境の工夫を意識することで、子供たちは十分に「学びがい」を感じることができるのではないのでしょうか。昨年度はこの記事で「ちょっと子供たちに任せてみませんか」と投げかけました。今年度はそれを一歩進め、子供たちに任せるための環境を可能な範囲で工夫することで、より「学びがい」のある学校づくりに取り組んでいただければと思います。

また、子供たちの「学びがい」と教職員の「働きがい」はセットだと思います。教職員の業務改善が本格的に取り組まれるようになって数年が経過します。こちらから「できそうな業務改善」から「必要な業務改善」へのステップアップにより、子供たちの「学びがい」のために使える時間を確保し、先生方の「働きがい」を高めていただければ幸いです。

西部教育事務所では今年度、「児童生徒がエージェンシーを発揮できる環境の構成」をテーマとして、指導助言に努めるとともに、先生方の「働きがい」の向上も応援したいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

注1：ドラゴン桜第1シリーズ(2005年)第8話より

学校教育係では、下記の事業の支援を行っています！

○「各教科等授業改善プロジェクト 指定校事業」(群馬県教育委員会 義務教育課)

管内4校の指定校に、各教科の目標に迫ることを目指した授業づくりについて研究を進めていただいております。指定校及び研究教科については以下のとおりです。

○高崎市立入野小学校 11月19日(水) 図画工作

○安中市立原市小学校 11月18日(火) 学級活動

○甘楽町立福島小学校・甘楽中学校 10月31日(金) 社会

○「スクールカウンセラースーパーバイザー、スクールソーシャルワーカーの派遣」

スクールカウンセラースーパーバイザー、スクールソーシャルワーカーの派遣ができます。

いじめ、不登校、学力不振、非行等の問題に対して、関係機関等とのネットワークを活用したり、ケース会議をしたりしながら困難な事案の解決に向けた支援を行います。

○「特別支援教育専門相談員の派遣」

各学校・園等に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への指導等について、先生方の相談に応じています。通常の学級・特別支援学級・通級指導教室を問いません。

上記事業・支援については、西部教育事務所のHPをご覧ください

児童生徒がエージェンシーを発揮できる環境の構成

「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」で目指す「自律した学習者」の育成に向けて、エージェンシーに着目し、様々な取組が行われました。西部管内の学校では、先生方の授業改善により、児童生徒がエージェンシーを発揮する、素晴らしい姿が数多くの場面で見られました。

令和7年度も児童生徒が「～する」授業のさらなる推進が必要です。そこで、昨年度各教科等授業改善プロジェクトの指定校の取組を紹介します。ぜひ皆さんもご自身の実践で環境の構成を工夫し、児童生徒がエージェンシーを発揮できる授業にチャレンジしてください！！

学び方を習熟する機会の設定

【理科】 高崎市立並榎中学校

並榎中学校では、単元の導入場面において単元の課題を設定する機会を、年間を通して繰り返し位置付けました。

このことにより、生徒は植物と動物の体の特徴を比較し、共通点や差異点を話し合い、自分自身で単元の課題を決める姿が見られました。最初は単元の課題を決めることに難しさを感じていた生徒たちも、自分たちで決めることで、“解決したい！”という思いを高め、課題解決を進めていました。

単元の課題		
1班 植物の仕組みやつくりはどのような特徴があるのだろうか？	2班 植物が育つにはどのような栄養が必要か、またどのような植物の仕組みが関わっているのだろうか？	3班 植物のつくりや育ち方にはどのような特徴があるのか？
4班 植物の育ち方にはどのような特徴があるのだろうか？	5班 植物のからだのつくりと成長はどのような関わりがあるか？	6班 植物のつくりはどのようなになっているのか？
7班 植物の体のつくりやはたらきには生きるために何が重要で、どの様に関わっているのだろうか？	8班 植物が成長するために何が必要なのだろうか？	9班 植物の体のつくりはどのようなになっているのか、どのようにして成長しているのか？

思いを実現する道具の準備

【理科】 高崎市立金古南小学校

金古南小学校では、考察を話し合う際に、一度結果が出た後も何度も実験ができるよう器具を置いたままにするなどの準備をしました。

このことにより、児童はてこが水平につり合うときの条件について、結果を基に話し合ったり再実験したりして、結論を導く姿が見られました。てこが水平につり合うときの条件について友達と話し合う中で確かめたいことが生まれたときには、実験を繰り返し行い、自分の考えを確かにしていました。



工夫を促進する視点の提示

【音楽】 安中市立磯部小学校

磯部小学校では、「待ちぼうけ」の歌い方を工夫する上で、グループでの歌い方の工夫の話合いと歌唱を繰り返せるように、前後の場面のつながりに着目する視点の提示をしました。

このことにより、児童は「待ちぼうけ」の場面のよさや面白さが伝わるように、各場面の歌い方の工夫を考え比較し、歌う姿が見られました。声の強弱や音色に変化をつけたり、歌を録音して聴いたりしながら、納得できる歌い方を目指していました。



探究を支える単元・題材等の計画

【技術分野 プログラミング】 藤岡市立西中学校

西中学校では、身近な災害という必要感が高まる課題の設定と、生徒の課題解決につながる題材を計画するという工夫をしました。

このことにより、災害時の生活を支えるシステムについて、互いの考えを基に解決方法を見いだす姿が見られました。災害時等の生活における課題の解決に向けて、題材を通して学んできた開発者の思いや様々なシステムの特徴を基に友達と交流しながら、考えを広げていました。



生涯学習係では、学校・家庭・地域の連携・協働のために、ご希望に添った研修会を行います！

○出前型研修支援事業

市町村教育委員会、学校運営協議会委員、教職員、保護者等を対象にコミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関する出前型研修を受け付けています。

（昨年度実施例）

- ・地域学校協働活動、コミュニティ・スクールに関すること
- ・地域学校協働活動推進員に関すること
- ・「ワクワク子育てトークン～ぐんまの親の学びプログラム～」など

上記事業・支援については、西部教育事務所の HP をご覧ください